

## 【事業実績】

### 学校と美術館の連携事業

#### 2023 学校教育とミュージアムラーニングの接続から新たなミュージアムの価値の創造へ

##### 1. やさしい日本語×ミュージアム

やさしい日本語でアートを楽しむワークショップ「伝統工芸でつながるあなたと私の部屋」

- (1) 企画・検討会：10/29（日）、11/16（木）
- (2) 開催日時・場所：11/25（土）13：00－14：30  
@岡山県立美術館研修室・地下1階展示室
- (3) 参加者数：10人（18歳以上の在住外国人、本プログラムに興味のある日本人）
- (4) 講師：高尾戸美氏（合同会社マーブルワークショップ代表）
- (5) スタッフ：学生スタッフ1人、美術館スタッフ1人
- (6) 成果と反省



参加者アンケートからは、とても楽しかった（7人）、楽しかった（1人）と、参加者の満足度は高かったことが読み取れた（10人中8人回答）。その理由の一つとして、「伝統工芸品はもともと専門用語がたくさんある。職人の方から説明があるが全然わからない。やさしい日本語から勉強すれば、自分も伝統工芸品の知識が得られるし、他の人と交流もできる」という意見があった。課題は、参加者が岡山大学の留学生に偏ってしまったことである。今後、どのようにやさしい日本語を必要とする人々に、情報を届けるかが課題である。そのために、やさしい日本語を必要としている人々と関わっている関係諸機関と日ごろからどのように関係性を紡いでいくかが肝になると考える。

##### (7) その他

\*山陽新聞朝刊 2024年1月14日（日）

\*岡山県立美術館館ニュース 144号

<https://okayama-kenbi.info/kenbi/wp-content/uploads/2024/03/news144.pdf>

##### 2. UM プログラム

「暗闇ワークショップ-彫刻をさわって、はなして、みる」

- (1) 企画・検討会：11/7（火）on-line、1/6（土）、1/7（日）AM
- (2) 開催日時・場所：1/7（日）14：00－16：00、  
1/8（日）9：30－11：30、13：30－15：30  
@岡山県立美術館講義室・研修室

- (3) 参加者数：計13人
- (4) 講師：広瀬浩二郎氏（国立民族学博物館教授）、  
鈴木鈴子氏（岡山健盲導犬友の会会長）、北川太郎氏（彫刻家）、江村忠彦氏（彫刻家）



- (5) スタッフ：美術館スタッフ2人

##### (6) 成果と反省

視覚障害の有無に関わらず、小学校中学年以上を対象にプログラムを実施した。暗闇で全盲当事者と作家計4人のファシリテーターと双方向性を重視して触察を行うことにより、視覚だけに頼らない鑑賞活動が生まれた。また、車いすユーザーの参加者もあり、車いすユーザー当事者がファシリテーターとなるWS企画<案>が新しい展開として持ち上がっている。視覚障害者の参加が今回なかったことが反省点である。

### 3. ひきこもり支援×ミュージアム

アート体験 in 岡山県立美術館「色は無限大∞ わたしのすきをみつける」

- (1) 企画・検討会：9/13（水）、10/18（水）
- (2) 開催日時・場所：2/1（木）13：30－15：30  
@岡山県立美術館研修室・2階展示室
- (3) 参加者数：16（ひきこもり当事者7人、支援者9人）
- (4) 講師：岡本裕子（岡山県立美術館主任学芸員）
- (5) アドバイザー：端山聡子氏（東京国立近代美術館教育普及室室長）  
同：岩本真実氏（チルノバ合同会社だお表社員）
- (6) オブザーバー：4人
- (7) 成果と反省



ひきこもり当事者からは、「今までの職場体験やボランティア会とは違う感覚で広がりを感じた」「ワークショップってなんだろうと思っていたけど、こんな感じなんだと、楽しいなと思った」等好評だった（支援者による個別のインタビュー）。支援者からも初めてのアート体験会が、当事者自身の自己肯定感に結びついたことが述べられていた。同時に、ひきこもり当事者対象のワークショップだからこそ、ゆとりの空間の場づくりという新しい視点も課題として上がった。

### 4. カルチャーゾーン・ミュージアムラーニング

ミュージアムの使い方「あいうえお」の作成

- (1) 企画・検討会：4/20（木）～2/8（木）まで、計10回開催
- (2) 参加館：岡山県立博物館・岡山県立美術館・岡山市立オリエント美術館・林原美術館・夢二郷土美術館（岡山カルチャーゾーン内ミュージアム5館）
- (3) アドバイザー：大野繁氏（医療法人大野はぐくみクリニック理事長・医学博士）、赤木里香子氏（岡山大学学術研究院教育学域教授）、高尾戸美氏（合同会社マーブルワークショップ代表）
- (4) 成果物：各館の使い方「あいうえお」（本編）\_PDFを各館HPにアップ  
例）岡山県立美術館のあいうえお <https://okayama-kenbi.info/topi-aiueo/>  
ダイジェスト版\_A3二つ折り 5,500部制作
- (5) 成果と反省



5つの館の特性、並びに利用者（潜在的利用者含む）の特性を洗い出すことで「博物館の「新しい定義」（ICOM）等を共有し、「ミュージアムの視点」からでなく「利用者の視点」から話し合えるようになった。そのような視点を持つことで、県外他館での先行実践者や、医療従事者、学校関係者等様々な立場の人と共に新しい関係性を構築していく可能性が生まれた。そうした中で、「ソーシャル・ストーリー」という名称を使用することから「ミュージアムの使い方<あいうえお>」に名称を変更する案が生まれてきた。神経発達症の方、またその当事者に関わる方々向けに作成した当作成物は、はじめてミュージアムを訪れる方等にも汎用性のある形で利用していただけるポテンシャルをも持っていることがみえてきた。特に今年度取り組んだ、やさしい日本語×ミュージアム、ひきこもり支援×ミュージアムに参加した参加者や関係諸機関からの利用の可能性や問い合わせをいただいている。